福島第一原子力発電所現地確認報告書

１　確認日

令和８年９月８日（火）

２　確認箇所

高温焼却炉建屋（図１）

３　確認項目

ゼオライト土嚢等回収に係る干渉物撤去作業の状況

４　確認結果の概要

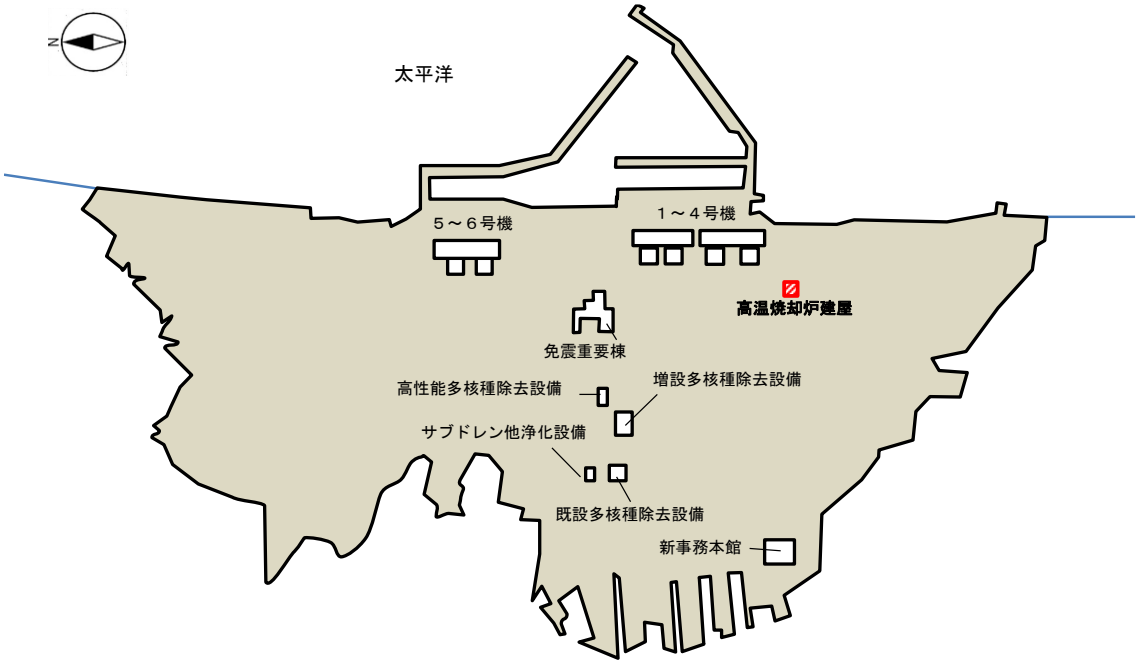
東京電力は、プロセス主建屋及び高温焼却炉建屋（以下「ＨＴＩ建屋」という。）からの放射性物質を含む滞留水漏えいのリスクを低減するため、最下階（地下２階）に貯留した滞留水について、水位を床面が露出するまで低下させる計画を立てている。

両建屋の最下階には、事故当時（平成２３年）、滞留水中の放射性物質を低減させるためにゼオライト土嚢や活性炭土嚢が設置された。これらの土嚢は、滞留水中の放射性物質を吸着しており現在も非常に高い線量（土嚢の表面線量率が最大で４Ｓｖ／ｈ以上）となっている。このため、現状のまま水位低下をした場合、高線量化したゼオライト土嚢等が水面より露出し、放射性物質の飛散や空間線量率の上昇等が生じるおそれがあることから、水位低下前にゼオライト土嚢等を回収する計画としている。

ゼオライト土嚢等の回収作業は作業の効率化を図るため、集積作業と容器封入作業の２ステップに分かれており、ＨＴＩ建屋において１ステップ目のゼオライト土嚢等の集積作業が遠隔装置等により進められた。

今回は、集積されたゼオライト土嚢等の容器封入作業に必要な地上階での作業スペースの確保等に向けて、事故前に設置されていた既存大型機器類の撤去状況を確認した。

・地上階に設置されていたセラミックフィルタや排ガス冷却器及び高温焼却炉は撤去され、地下階と通じる開口部には鉄板が敷設されていた。（写真１）
・また、電気品室（電源盤等が設置されている部屋）においても機器類の一部が撤去されていた。（写真２）
・これらの機器撤去は、ゼオライト土嚢等の容器封入作業に必要な作業スペース及び耐床荷重を確保するために実施されており、工程に沿って安全に作業が進められていた。
・今後は、容器封入作業に必要な設備群（保管容器、補給水ポンプ・タンク等）の設置作業が行われる予定である。



（図１）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真１①）高温焼却炉建屋（ＨＴＩ建屋）



（写真１②）高温焼却炉の撤去跡



（写真１③）セラミックフィルタの撤去跡



（写真１④）排ガス冷却器の撤去跡（鉄板が敷設）



（写真２①）電気品室の状況①（電源盤の架台のみ残置）



（写真２②）電気品室の状況②（架台、資材類が保管）

５　プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常値は確認されなかった。